2023

ANNUAL REPORT

活動報告書

Manabi to

認定 NPO 法人 まなびと

まなびとについて

やりたいことが見つかるまでの“待ち時間”

やりたいことがはっきりしていると自分が何をすべきかが明確になったり、周りの人がアドバイスをしてくれたりする。思い描いたことが形になり、人生が前に進み始める。一方で、やりたいことが見つかっていないと、自分が何をしたらいいのかが分からず、周りもどうやって手を差し伸べたらよいのかが分からなくて、状況が変わっていかない。人生が同じようなことの繰り返しで、歳を重ねる内に周りの人にはおいていかれているような感覚になり、徐々に孤立して、世界が縮小していってしまう。そうなると、新しい刺激が少なくなって、やりたいことが見つかりづらい状況にどんどん追い込まれてしまう。

まなびとは、やりたいことが見つかっていない人でも「あなたはあなたで居ていい」と受け入れられる居場所と、新しい価値観や生き方に出会える多様な人との関わりがある、“待ち時間”を大事にしています。やりたいことがなくても、居場所を得ながら自分のペースで世界と出会っていくことで、ひょっとしたらいつかやりたいことが見つかるかもしれないという前向きな気持ちで日々を過ごすことができる。やりたいことが分からない人でも、“待ち時間”があることで「生きよう」と思える、そんな社会にしたいと考えています。

コンセプト

VISION
ビジョン

誰もが自分の可能性を信じ、安心して歩み続けられる社会へ

「まなび」で出会う多様な選択肢から、誰もが「自分らしい人生」を過ごせる世の中を目指して

MISSION
ミッション

すべての人に、やりたいことが見つかるまでの「待ち時間」を提供する

ひとりひとりの未来につながる「今の自分を受け入れてもらえる居場所」と
「多様な価値観に触れて人生を自己決定できる学び」を、全ての人に届けます

VALUE
バリュー

安心 [一人ひとりの存在を認める]
多様性 [個性を活かす]
主体性 [自分の “したい”を大切にする]
関わり合い [他者に対して一歩を踏み出すコミュニケーションをとる]

代表インタビュー

自分を見つけるまでの”待ち時間“が大切にされる社会をめざして

僕は子どもの頃、学校でも家でも、自分の居場所が見つけられず苦しんでいたと思います。
中学校のときクラスメイトとの関係がうまく行かずいじめられていたり、高校生のときに両親が離婚して母親に引き取られたのですが、なかなか家で勉強できるような環境ではなかったり。高校の時に吹奏楽部に所属していたのですが、その部活が自分の中の数少ない居場所だったかもしれません。部活の先生から言ってもらった「おまえにしかできないパートだから」という言葉が支えになって、学校に通えていたように思います。

それでもなんとか頑張って大学は入ったし、その後５年間の大学生活の後、大手企業からの内定ももらったのですが、最後の卒業論文がどうしても出せなくて。書こうとはしてみるものの、「これは自分が書きたくて書いているものではない」と何度も手が止まってしまって。結局卒論の提出ができなかったために大学の卒業が叶わず、内定も辞退せざるを得なくなりました。

卒論もそうでしたが、その先にある社会をイメージしても、そこにあるのが本当に自分がしたいことなのか、一度立ち止まってしまったら、すべてが閉塞しているように感じられてきて、そこから何もできなくなってしまった。

それからしばらくは家もろくに出ず、何をするでもなく、ただただぼーっとして過ごしました。でも、時間はあった。あるとき、何を思ったのか地下室からスコップを持ってきて、自宅の裏にある雑木林に穴を掘り出しました。来る日も来る日も、気づけば1か月間穴を掘っていました。後から考えてもなぜそんなことをしようと思ったかはわかりません。

でも当時、父と住んでいたのですが、何も言わずに父が「待っていてくれた」ことがとても大きかったのだと、振り返ってみて思います。僕が「まなびと」を通じて、子ども、外国人、大学生など、一人一人がやりたいことを見つけられるようになるまでの“待ち時間”的な場所をつくれたらと考えるようになった原点が、そこにありました。

「何かができるから、誰かの役に立つから、その場所にいていい」のではなく、何者でもなくて、何ができるかもわからないけれど、自分なりに試行錯誤したり、周りの人と影響を与え合ったりする中で、自分のできることやしたいことに気づいていく過程があるのだと気づけた瞬間だったのです。

もうひとつ自分の体験で大きかったのは、タイでゆっくり過ごしたことです。「自分がやりたいと思ったことは、どんな小さいことでもトライしてみたらいいんだ」。穴を掘って以来そう思えるようになった僕は、ランニングをしたりフットサルをしたりスノーボードをしたり、とにかく今までやってこなかったことにチャレンジして、その都度新しい発見と出会っていたのですが、ひょんなことから海外旅行でタイに行くことになりました。

そこで、想像を超える価値観の違いに出会いました。自分が子どもの頃から言われ続けてきた「一番を取って、いい学校に通い、いい会社に入ったら、いい人生が待っている」とはまったく別の生活観や働き方がそこにはあった。でも、こういう幸せの形もあっていいんじゃないか。そんな風に感じ、とても心地がよかった。

「まなびと」は、多様な価値観や生き方に触れられるような出会いを届けたい、とうたっていますが、それはかつての僕のように、まだやりたいことが見つけられず模索している人に向けて、“居場所”や“待ってあげられる時間”をつくれたらという気持ちから始まっています。

そして「見つけたい」という思いは、子どもも大学生も留学生も障害のある人も子育て中の人も、きっと子どもから大人まで連綿と続いているものだと思っています。ですから、「まなびと」は地域にいるみんなにとってアクセスできる場として、幅広く開いていきたい。子どもを対象とした学童保育や遊び場づくりも、外国人を対象とした日本語教室も、障害のある子ども向けの音楽教室も、地域の人々が一緒にごはんを食べながら交流するちいき食堂の活動も、その原点・原動力はいつも同じです。

ひとりひとりにとっての、やりたいことが見つかるまでの“待ち時間”が大切にされる社会をつくりたい。「まなびと」はその思いを胸に、多様な学びの場をつくる活動を今後も推進していきたいと考えています。

まなびとについて

Manabi to
まなびと プロジェクト相関図

沿革

2013年9月	学際団体IROHA設立
2014年1月	任意団体「まなびと」設立。 小学生を対象とした「放課後学習支援アシスト」の 活動を開始。 在留外国人に向けた日本語教室「だんらん」を開始。
2014年12月	NPO法人「まなびと」として登記
2016年12月	まなびと灘区拠点を開所
2016年8月	神戸三宮エリアの子どもたちの遊び場づくりを 目的とした「神戸こども探険隊」の活動を開始
2017年7月	神戸市中央区北野町に拠点を移し 学童保育施設「北野くん家」を開設 まなびと北野基地を開所
2017年8月	特例認定NPO法人に認定
2021年4月	まなびと北野基地を現在の場所へ移転
2021年6月	コミュニティカフェCAFE&BARまどゐの営業を開始
2022年12月	外国人留学生を対象とした食糧支援を開始
2023年9月	新神戸で新たな拠点を開設

子どもの居場所づくり

活動の背景

都市部において、子どもたちが自分で通えて、多様な人達と関わることができる、安心できる居場所が求められています。
都市部の子どもたちは放課後の時間に子どもたちだけで公園で遊ぶ習慣が少なく、家の中や塾で過ごしがち。インターネットを通じて豊富な動画コンテンツに触れる経験はできても、人と関わったり協力して一緒にものをつくりあげるような体験は乏しい。
友達と一緒に過ごしたり、いろんな大人と出会って多様なコミュニケーションをする環境が必要です。

民間学童保育施設
北野くん家

民間学童保育施設

北野くん家

学童保育施設（放課後児童クラブ）の運営。
いろんな人たちと積極的に関わりながらの
遊びと学びを大切に。

こども探険隊

神戸 こども探険隊

毎週火・木の17〜19時、まなびと北野基地に
子どもたちが集まって、宿題をしたり
遊んだりしています。無料で参加可能。

放課後学びスペース
アシスト

放課後学びスペース

アシスト

集団授業が苦手、不登校経験者で周りと
ペースが合わない、発達障害や学習障害がある、
などといったお子さんに伴走する学習支援。

放課後等デイサービス
あるまじろ

放課後等デイサービス

あるまじろ

2024年3月からスタートした、
発達障害のある小中高生のお子さん向けの
放課後デイサービス拠点。

Music Lab.
ツナガリ

ツナガリMusic Lab.

発達障害のある子どもたちが通うことができる
音楽教室。西宮にある「ツナガリMusic Lab.」と
共同で三宮の新教室を開校しました。

「子どもたちの
やりたいこと」に
寄り添う

民間学童保育施設 北野くん家

民間学童保育施設 北野くん家

2023年度 活動実績			
	○活動日数……21日	○利用者属性	
	○利用者数……34名	1年生…17人	4年生…0人
	○利用者延べ人数……約415名	2年生…9人	5年生…2人
	○スタッフ数……19名	3年生…6人	6年生…0人

利用者ボイス

子どもが北野くん家に通うようになってから、毎日のように「これ」とお迎えの時に何かを渡されるようになりました、初めのうちは簡単に作れる紙飛行機ばかりだったが、次第に感心するような作品が多くなってきました。子どもに聞くと、北野くん家では折り紙の本やタブレットの動画を見たり、友だちやスタッフに教えてもらったりしているとのことでした。そして、折り紙はいろんなものを使った工作に変わり、割りばしや牛乳パックなど、子どもたちが必要とする物をあらかじめ準備していて出してくれるとのこと。子どもたちが夢中になれるような環境を作ってくれていることに感謝しています。

スタッフボイス

北野くん家では、宿題を終わらせた子ども達はそれぞれに好きな遊びを始める。Nさんはごっこ遊び、特に警察ごっこが好きだ。初めのうちNさんは悪を取り締まる警察官を演じることが多かった。それがNさんの警察官像だったのだろう。しかし、回数を重ねていく中でその警察官像が変化していくのが分かった。単に悪人を捕まえるだけでなく、社会を守る、正義を守る警察官を演じるようになっていた。それはNさんの価値観や世界観が広がったからだと思う。子供たちが北野くんの家で過ごすことで、成長する様子を見ることができたことは、私にとっても貴重な経験だった。それが私の成長にも繋がったと感じている。

遊びを通じた子どもの成長

神戸 こども探険隊

神戸 こども探険隊

2023年度 活動実績			
	○活動日数……63日	○利用者属性	
	○利用者数……30名	1年生…14人	6年生…2人
	○利用者延べ人数……約662名	2年生…8人	
	○スタッフ数……10名	3年生…6人	

利用者ボイス

探険隊では自分ではやったことのない遊びをみんなと一緒に出来るのが楽しいです。今までやった中でも特に楽しかったのは、だんごむし鬼ごっこやみんなで風船を落とさないように協力して遊ぶ風船リレー、ティッシュ仰ぎレース！途中で喧嘩が起きてしまうこともあるけど、みんなで決めた目標をクリア出来る様に力を合わせて達成出来た時がとてもうれしかったです。

スタッフボイス

探険隊の活動を始めたきっかけは、やりたいこと・将来就きたい仕事が特になく、高校で進路について先生へ相談しているときに「何でもいいからボランティアをやってみたら？」と勧められたことだった。初めは深く考えずに活動を始めましたが、やってみるととても楽しく、何事も続かずすぐに辞めてしまう自分が一年以上続けられている。探険隊では楽しいだけではなく、大変なこともあり悩む時も多いが、難しいことがあっても「どうしたらいいのか？」と考えることが自分の力になっていると感じている。活動を続けるうちに、将来は、大変なことがあってもその大変さを含めて楽しいと思える仕事をしたいと考えるようになり、高校卒業後は小児リハビリを学びたいという自分の"やりたいこと"を見つけることができた。

ツナガリMusic Lab.

障がいを持つお子さんでも通える音楽教室

2023年度 活動実績		
	○活動日数……39日 ○利用者数……5名 ○利用者延べ人数……158名	○利用者属性 未就学児3名（5歳2名,6歳1名） 小学生2名（1年生1名,5年生1名）

利用者ボイス

ツナガリMusic Lab.に通い始めて、改めて息子は音楽が好きなんだなと思いました。この一年でどんどん楽器演奏が上達しており、その変化は毎レッスンで感じられています。自宅でも自分からキーボードを出して意欲的に練習をしています。また、年に一回ある発表会・グループでのバンド演奏という機会を通して自信がついてきており、その自信がまた次の「やりたい」へ繋がり、彼自身の自己肯定感が上がっています。何よりも本人がレッスンを楽しんで受けており、月3回、土曜日のレッスンが息子にとっての居場所になっています。

スタッフボイス

入会当初から音楽が大好きだったT君。音楽を本格的に習うのは初めてということで、ピアノではまず好きな曲を片手でメロディ演奏し、演奏する楽しさを体験してもらうところから始まった。当時、お母様は「いつか息子もピアノを両手で弾ける様になるのかな?」とお話しされていたが、それから早二年、T君は今では楽譜を自分で読めるようになり、色々な曲を両手で素敵に演奏している。たとえうまくいかない部分があっても「難しいところだけ練習してみる」と自分の気持ちを整えたり、少し失敗しても「必ず出来る」と自分を信じることで諦めずにチャレンジする姿が本当にかっこいい。T君にとって、レッスンの場が安心してチャレンジし続けられる場所である様に、また、T君のこれからの人生が音楽を通してより豊かなものになる様に私自身も講師としてのチャレンジを続けていきたいと思っている。

放課後学びスペース アシスト

ひとりひとりの学び方をアシストする

2023年度 活動実績		
	○活動日数……60日 ○利用者数……5名 ○利用者延べ人数……153名 ○スタッフ数……4名	○利用者属性 中学生….1人 高校生….1人

利用者ボイス

週に1回の授業だが、アシストでスタッフと勉強する中で、例えば「地理」の時間に時差の計算の仕方がわかるようになったり、「数学」の問題を学校でも解けるようになって嬉しかった。
また、社会の知識が豊富な友達と色々な話ができるようになったのはアシストの時間があったからかなと思っている。
何より、騒がしい環境で暮らしているので、週に1度落ち着いて話をしたり勉強したりできることは良いことだと思っている。
これからは、自分のやりたいことをアシストを通じて見つけたい。

スタッフボイス

アシストの活動は単なる成績アップの勉強だけを目的とした場ではない。もちろん勉強を目的に来てくれてもいいが、中には勉強する意欲やインセンティブを失っている子もいる。そうした子たちに何が届けられるのか、常に考え続けている。子どもたちの「声にならない声」を探ることはとても難しいが、それが僕たちの重要な役割だと考えている。そんな中で、授業とは「投壜通信」(=message in a bottle)のようなものだと感じることがある。メッセージを送り続けても、いつ相手に届くか、読まれるかわからない。しかし、たとえ相手がそれを死ぬまで読まなかったとしても、稀にメッセージが届く瞬間がある。私にとっての「待つ」とは、その瞬間まで授業というメッセージを送り続けること。これからもスタッフから常に良いメッセージが送られ続ける教室にしていきたい。

子育て世帯向け食糧支援

2023年度 活動実績	
	○活動日数……114日 ○利用者数…… 2811名 ○スタッフ数……5名

子育て世帯向け食糧支援に関するご報告

1. 背景と目的
2023年4月より、私たちは神戸市の「食を通じた繋がり支援」の中央区の実行団体に採択いただきました。この取り組みは、今般の物価高騰等の影響で、生活が厳しい子育て世帯を対象に、食品等の提供をきっかけとして、地域や行政等の支援機関につなげることを目的とした取り組みです。

2. これまでの活動
まなびとはこれまで、「北野くん家」や「神戸こども探険隊」などの活動を通じて、障がいを持つお子様や外国ルーツのお子様、ひとり親家庭の支援を行ってきました。今年度は新たに「食を通じた繋がり支援」を始め、約100家庭と新たに繋がることができました。これにより、より多くの方々に私たちの活動を知っていただくことができました。

3. 北野エリアから中央区へ
2016年から2022年までは、神戸市中央区北野エリアで学童保育や日本語教室の運営をしてきましたが、2023年からは活動範囲を中央区全体に広げました。昨年9月には新神戸エリアに新しい拠点を開設し、地域の方々にアクセスしやすい場所での活動を進めています。

4. 西側エリア新拠点の開設にむけて
2023年10月2日から2024年1月31日にかけて、神戸駅近くに新しい拠点を開設するための資金をふるさと納税を活用したガバメントクラウドファンディングで募集しました。おかげさまで4,549,500円を調達することができました。ご支援いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

5. 今後の活動予定
西側エリア新拠点の開設により、生活が厳しい子育て世帯への食糧配布や、外国人留学生向けの日本語教室を開催します。地域の皆様にも気軽に足を運んでいただける場所にしていきたいと考えています。これからも、立ち寄ってくださる方々のお話を丁寧に伺いながら、皆様の居場所として信頼関係を築いていきたいと思います。

利用者ボイス

週に1回こちらの食支援を利用しています。食糧をいただけることで生活の足しになっているのでとても助かっています。この食支援を通じて、まなびとの他の活動を知り、「ちいき食堂」や「神戸子ども探険隊」の利用を始めました。子どもに学校以外の放課後の居場所をつくってあげたいと考えていたので、色んな子どもや大学生、大人と関わることのできる場があり、子どもも毎回「ちいき食堂」や「探険隊」に行くことを楽しみにしています。また、春日野道の拠点では保護者向けの座談会などもあり、子どもだけでなく大人にとっても一息つける場がありことで自分にとっても居場所になっていると感じています。

スタッフボイス

私は、まなびとの留学生向けの食糧支援を利用しています。食糧支援で、ボランティア活動に参加したいと相談したところ、この子育て世帯向けの食糧支援の活動を教えてもらい、週に1回ボランティアスタッフとして活動しています。初めは、自分の日本語に自信が無かったですが、毎週利用者の方と関わることで、日本人のコミュニケーションの取り方が学べ、少しずつ自分の日本語にも自信がついてきました。利用者の方から「ありがとう」と言ってもらえることがすごく嬉しいです。これからも自分にできることを少しづつやってみたいと思います。

外国人の居場所づくり

活動の背景

外国人留学生は潜在的には社会貢献に対する意欲があり、いろんな活動に参加してコミュニケーションを取りたいというチャレンジ精神も持っていながら、実際には地域の中での人とのつながりをなかなか得られず、「地域の課題を生み出す存在」として社会に捉えられてしまっています。彼らのポテンシャルを引き出しながら社会とマッチングしていく伴走型のサポートが必要です。

日本語教室 だんらん

日本語教室だんらん（対面）

日本語を話せるようになって、日本の友達を増やしたり日本での就職を実現したい外国人の方へ。実際の暮らしで使う日本語が学べます。

日本語教室 だんらん オンライン

日本語教室だんらん（オンライン）

日本語教室「だんらん」のオンライン版。オンラインチャットを用いた1対1か1対2の少人数制で授業を行います。

外国人留学生向け 食糧支援

日本語学校に通う外国人留学生を対象にした食糧支援。食糧支援と共に困りごとを話せる場にもなれば。

外国人居住支援

居住支援を行う法人として兵庫県から指定を受け、外国人の居住をサポートする事業も行っています。

日本語教室だんらん（対面）

2023年度 活動実績

- ○活動日数……104日
- ○利用者数……32名
- ○利用者延べ人数……約501名
- ○スタッフ数……22名

○利用者属性

アイルランド（1名）、アメリカ（5名）、イギリス（5名）、イラン（1名）、シリア（2名）、ドミニカ共和国（1名）、ニュージーランド（1名）、バングラデシュ（1名）、ペルー（3名）、台湾（2名）、中国（7名）、日本（1名）、フランス（1名）、マカオ（1名）

利用者ボイス

私は日本語学校に通いながら神戸で暮らしていましたが、日本人の友達がなかなかできませんでした。学校のクラスメイトから日本語教室だんらんを紹介してもらい、水曜日のクラスに参加することになりました。だんらんの授業では、学校で学んだ日本語を同世代の日本人との会話の中で練習をすることができました。また、だんらんに来てから、色んなイベントに参加したり、日本人の友達ができたり、日本での生活がさらに充実しています。あと少しで、日本語学校を卒業し、母国へ帰国する予定ですが、帰国後はオンラインだんらんに参加しながら日本語を学び続けたいと考えています。

スタッフボイス

だんらんの活動では、日本語を教えるだけでなく、生徒の生活状況にも寄り添いながら、授業をしている。ある日の授業で、担当の生徒が少し元気がないように見えた。、何かあったのか尋ねてみたところ、職場で日本人とのコミュニケーションが難しく、少し疲れていると教えてくれた。この日は、生徒の職場での状況やどんな時にコミュニケーションが難しいと感じるのかゆっくり時間をかけて聞いてみた。大したアドバイスができたわけではないが、授業の終わりに「だんらんではこんなふうに色んなことを話しても良いんだね」と言ってもらえてとても嬉しかった。これからも生徒にとって安心できる場所を創っていきたい。

日本語教室だんらん（オンライン）

2023年度 活動実績

- ○活動日数……188日
- ○利用者数……78名
- ○利用者延べ人数……526名
- ○スタッフ数……82名

○利用者属性

イギリス（3名）、イタリア（1名）、イラン（2名）、インドネシア（4名）、スペイン（1名）、ドイツ（1名）、フィリピン（1名）ベトナム（5名）、ベナン（1名）、マレーシア（2名）、ミャンマー（1名）、ルワンダ（1名）、韓国（4名）、台湾（6名）、中国（43名）、南アフリカ（2名）

利用者ボイス

私は日本在住の会社経営者です。日本での生活や会社の経営において、日本語を使わなければいけないので、昔から日本語をきちんと勉強したいと思っていましたが、毎日仕事で忙しく、日本語学校へ通うことはできませんでした。コロナ禍で時間ができた時に、オンラインで日本語を学びたいと思い、日本語教室を探したのかオンラインだんらんに参加したきっかけです。だんらんはボランタリーな日本語教室ですが、日本語を教えるスタッフは熱心で日本語学校の先生のようです。教室の雰囲気も良く、分からないところがある時は、理解できるまで丁寧に教えてくれます。また、日本語の勉強だけでなく，日本文化や日本の伝統についても教えてくれます。だんらんに参加してから、自分の日本語力は向上したと思います。だんらんのスタッフのみんなには感謝しています。

スタッフボイス

オンラインだんらんのボランティアを始めて3年になる。オンラインだんらんの生徒とスタッフは自分より年上の人がほとんどで、社会人の方も多い。目標を持ち続けて日本語を勉強している生徒、お仕事をしながらだんらんで日本語を教えるスタッフなど、何歳になっても自分のやりたいことをやり続ける方々を見ていると、自分も勇気をもらえる。そして、何より自分も頑張ろうと思わせてくれる生徒やスタッフを運営スタッフとしてサポート出来ていることを嬉しく思っている。

まだつながれていない外国人留学生との出会い

外国人留学生向け 食糧支援

2023年度 活動実績

- ○活動日数……13日
- ○利用者延べ人数……約1581名
- ○スタッフ数……86名

○利用者属性
ネパール…24%　その他..22%
バングラ…10%
ミャンマー…4%

利用者ボイス

日本に来てしばらくしてから、学校の紹介でまなびとの食料支援を知り、ボランティア活動への招待を受けた。日本は物価が非常に高く、食料支援は私の生活のために焦眉の急を解決してくれた。また、私はボランティア活動に参加することが好きで、ちいき食堂の活動にも参加した。ちいき食堂では、さまざまな国からの友達をたくさん作ることができ、私の視野を広げることができた。さらに、子供たちとの会話を通じて、私の日本語も向上させることができた。食糧支援支援は私の物質的な満足を満たし、ちいき食堂は私の心を満たしている。

スタッフボイス

食糧支援では食糧配布はもちろん、留学生への生活相談も行っている。留学生によって、悩みごとも様々だが、気軽に、継続的に話しやすい環境をつくることを心がけている。
中には、特別大きな悩みはないと言っていた留学生が、楽しく話しているうちに日本語や人間関係について困りごとを打ち明けてくれることもある。まなびとには様々な活動があるので、留学生の悩みごとに合わせて個別対応を行ったり、まなびとの活動を紹介したり、留学生の困りごとや孤独を解消する手助けができることにやりがいを感じている。

外国人居住支援

2023年度 活動実績

- ○活動日数……202日
- ○利用者数……11名

○利用者属性
中国……4名　インド……1名
ミャンマー…2名　バングラデシュ 3名
フランス……1名

利用者ボイス

私は2023年3月末に来日し、学校がまなびとの居住支援を紹介してくれました。来日してから、まなびとのスタッフに部屋探しをしてもらいながら、ゲストハウスで暮らしてました。まなびとスタッフのおかげで来日してから10日以内に新しい部屋に引っ越しすることができました。そして日本に来たばかりの私をまなびとの花見イベントに誘ってくれ、そこでたくさんの知り合いが増えました。花見をきっかけに、まなびとのちいき食堂でボランティアを始め、その他のイベントにも参加しています。今は日本語学校卒業してから大阪の大学に通ってますが、まなびとの活動をずっと応援してます。

スタッフボイス

居住支援の活動では、居住のサポートのみではなく、そのあとのつながりも大切にしている。
昨年、居住支援を行ったミャンマー出身の方が後輩へまなびとの居住支援を紹介してくれた。その後輩の方は、来日したばかりで日本語レベルもまだ高くはないため、いつも通訳として支援時にサポートをしてくれている。昨年は支援してもらった側の留学生が今年は他の留学生を支援している姿を見ることができ、より多くの留学生が誰かのことをサポートできるように私も関わり続けたいと感じている。

2023年度 外国人支援総括

今年度も、日本語教室の活動に加えて、外国人留学生向けのアウトリーチ事業に取り組みました。特に、食糧支援活動に力を入れ、クラウドファンディングも実施しました。また、休眠預金活用事業に「共生型の地域を支える外国人人材発掘、伴走型支援事業」が採択されました。1年間を通して、外国人留学生とさらに深く関わる方法を模索してきました。

クラウドファンディングの成果

2023年4月10日から5月31日にかけて行ったクラウドファンディングでは、208名の方から合計4,018,000円のご寄付をいただきました。これにより、1年間の食糧支援を実現できました。支援を通じて、以下の3つの成果がありました。

1.学童保育施設でのインターンシップ
「北野くん家」に留学生インターン3名を迎えることができました。インターン生は、子どもたちや学童職員、大学生ボランティアスタッフと日常的に関わり、日本語学校で学んだ日本語を実践する場として、また自分の得意なことや好きなことを表現する場として活躍しました。親御さんたちからは、留学生との関わりが子どもの視野を広げてくれたと感謝の声が寄せられています。

2.食糧支援の場での日本人との交流
毎月約100名の留学生が訪れる食糧支援の会場では、留学生がボランティアとして活動し、日本人との交流を楽しむ場となっています。食糧支援の場が、留学生にとって安心できる場所となり、日本人との交流のきっかけにもなりました。ボランティアスタッフ同士で意見交換を行い、新しい取り組みも生まれました。

3.行政との連携の可能性
学童保育の運営が基盤となっているため、「子どもの支援をしている団体」として地域で認知されてきました。1年間の外国人支援を通じて、行政との情報共有が進み、来年度の外国人支援に関する意見交換の要請を受けました。これにより、地域イベントへの外国人留学生の派遣や、多文化共生に関心のある団体や個人への講座など、行政との連携が進む可能性が見えてきました。

これからも、地域社会と外国人が一緒に支え合えるような取り組みを続けていきたいと思います。今後とも、ご支援のほどよろしくお願い致します。

クラウドファンディング御礼と寄付者様

寄付者様一覧（順不同）

金子 雄太郎 様
あきす 様
池田 拓也 様
西岡 幸子 様
三村 仁美 様
中村 久子 様
Treerak Corner 様
山下 和希 様
佐久間 淳成 様
杉本 貴弥 様
松田 康之 様
青山 夏樹 様
フリーなんす主夫 様
特定非営利活動法人Chitenducatio
代表理事 中北 順也 様
大福 聡平 様
下村 和也 様
今井 裕太 様
株式会社イースマイリー 矢澤 修 様
めがね舎ストライク 様
五十嵐 駿太 様
山本 博克 様
七條 智紀 様
北川 なみ 様
重田 和寿 様
いちはし 様
柏木 登起 様
李 恭子 様
エンタスKAZ 様
合同会社Laxmi Spot 様
あだち てつや 様
小泉 寛明 様
濱上 朋代 様
株式会社イマゴト 秋田 大介 様
上杉 徹 様
飛田 雄一、飛田 みえ子 様
内田 浩史 様
さとう せいこ 様
うえじゅん 様
NPO法人つなげる 中原美智子 様
Hiroki Sunagawa 様
斉藤 雄大 様
大野 祐一 様
邉見 彰貴 様
遠山 蒼空 様

多文化共生／地域コミュニティづくり

ちいき食堂

2023年度 活動実績	
	○活動日数……65日 ○利用者延べ人数……655名 ○スタッフ数……22名

利用者ボイス

私はドイツから来ました。日本語学校で日本語を勉強してます。まなびとの留学生向けの食糧支援をきっかけに、「ちいき食堂」を知りました。料理をすることが好きで、今はできるだけ毎週火曜日の「ちいき食堂」に参加してます。ただ私はビーガンで毎週自分の弁当を持ってきて「ちいき食堂」に参加してます。ある日の「ちいき食堂」で、ビーガンすき焼きを作ってみんなに食べてもらいました！みんな美味しく食べてくれたから嬉しかったです！

スタッフボイス

約1年ほど「ちいき食堂」で活動をしている。「ちいき食堂」の参加者の中に、ある小学生の姉妹がいる。その姉妹は、いつも会話の中で話題の提供や、色んな質問をしてくれるため、食事中は会話が途切れることがない。私自身、会話をすることが少し苦手だが、その姉妹から、初めての方が話しやすくなるための環境作りを学んでいる。個人的には「ちいき食堂」で子どもたちと一緒にカードゲームなどをして、一緒に遊ぶ時間がいつも楽しみだ。

CAFE&BAR まどゐ

#午後5時、まどゐにて。(4回開催)
現在まなびとに関わっている人やこれから関わってみたい人が集まってお互いの近況をシェアする、ゆるりとしたイベント。

ぴーちくぱーちく(4回開催)
自分の話したい国の言語で自由にコミュニケーションが取れる、国際交流イベント。

まどゐであまやどり(3回開催)
神戸市中央区やその近隣地域で「自分のやりたいこと」を仕事にされている方をゲストスピーカーに招き、中山と対談形式で語るトークイベント。
・ゲストスピーカーの皆様
mottif lab：坂本 友里恵さん
一般社団法人taru：代表 山下 和希さん
NPO法人Piece of Syria：:代表理事 中野 貴行さん

まどゐでつどい
月に1回、まなびとの代表 中山がカウンターに立ち、地域の皆様とゆるりと過ごすイベント。

大学生との関わり合い

活動の背景

大学生を中心とした若者たちはまだ自分に自信が持てず何ができるのかわからない不安や焦りを持っていますが、いろんな活動に参加する中でやりがいを見つけたり、将来につながる仲間との出会いなどを得る中で、成長していきます。彼らが自由に発想し、行動することのできるフィールドは、まだまだ地域の中には少ない。まなびとは大学生が積極的に発想し提案する場所でありたいと考えています。

大学生との関わり方

日々の活動ルーティン
日々の活動の前に必ず事前ミーティングを実施。その日の活動での注意事項、目指すべき項目や目標を共有。実際の活動を行うに当たり事前に考えて実行に移す習慣にしている。
活動後に振り返りを実施することで事前ミーティングで確認した内容が実際にどうだったかを振り返り、次回以降の活動に繋げて今後に生かしていく。

合宿
毎年9月に上半期の振り返りの機会と合わせて合宿を設定。DayCamp同様他のメンバーからの学びを受け取るだけでなく、合宿の企画を実行担当者が行うことで大学生自身の企画立案力・協働力醸成を狙っている。

Day Camp(月に一度の全体ミーティング)
日々の活動では関わらないメンバーとの交流の場を月に1度意図的に設定。別のプロジェクトでの学びを享受した上で自分事として捉えより一層多様な視点を持って日々の活動に繋げることを狙う。

報告会
年間の学びの集大成を共有する場として“報告会”を実施。各プロジェクトから代表者が発表するだけでなく、発表を聞いて個々で感じたことをシェアしながら翌年の活動、まなびと卒業後の自身の人生に“まなび”を繋げていく。

メンター支援
報告会発表者1人につき、1人ずつ社会人のメンター支援制度を設置。学生が発表に向けてこれまでの活動を振り返る際に言語化の補助や深堀りを第3者視点で共同することでより深い“まなび”に繋げる。

まなびと文化祭WASSHOI!

2023年度 活動実績	○利用者数……120名 ○スタッフ数……53名

まなびと文化祭WASSHOI！とは、まなびとが運営する「学童保育施設 北野くん家」の子どもたち、「日本語教室だんらん」の生徒である外国人の方々、それからまなびとボランティアスタッフの大学生、みんながごちゃまぜになって創り上げる、年に1回の文化祭です。

子どもたちが大学生のスタッフといっしょにつくった展示物、さまざまな国のことが知れるブースの数々、多国籍なスイーツの販売コーナー、来場者も一緒に参加できるステージ企画など、企画は盛りだくさん！

数か月前から準備を始めますが、まなびとに関わる人たちがそれぞれの活動を通して見つけた新しい自分や、成長したこと、好きなことを披露するイベントです。

昨年2023年の2月にも開催しましたが、コロナ禍の関係でしばらく行えていなかったので、このときは実に3年ぶりとなる開催でした。このイベントが再開されることが決まり、私たちの活動で関わっている人々が久々に再会できて、一緒に笑い合うことができて、改めてかけがえのない場だと実感することができました。

ブースに立つ外国人の人たちは、自分の日本語が通じているのか、不安を覚えながらも来場してくれたお客さんたちに一生懸命話しかけて想いを伝えていました。北野くん家で活動してきた子どもたちはお父さんやお母さんと訪れ、自分のつくった作品を紹介したりもしながら、学童で一緒の友達を見つけてイベントを一緒に楽しんでいました。

今後も、子どもから大人まで、年齢や国籍を問わず会場内で混ざりあい、多様性に溢れた場であるこの「まなびと文化祭WASSHOI！」を年に一回のペースで続けて、たくさんの笑顔を、スタッフたちと共に届けていきたいと思っています！

利用者ボイス

私は普段、まなびとの食糧支援を毎月利用している。食糧支援のスタッフに、「まなびと文化祭WASSHOI!というイベントがあるから参加してみないか」と誘われた。WASSHOI!の会場では、自分と同じような日本語学校に通う留学生が自分の国の紹介をしながら地域の日本人と関わっているのがとても印象的だった。来年は、自分も友達と一緒にバングラデシュの紹介をしたいと思った。

スタッフボイス

以前、北野くん家の活動の中で、子どもたちと一緒にこまどりアニメを制作するコンテンツ企画をしたことがあった。実際に企画をしてみると上手くいかないことも多く、子どもにもあまりハマらなかった企画だったと感じていた。今年のまなびと文化祭WASSHOI!で、子どもブースの企画を担当することになり、子どもたちにどんなブースを出してみたいか聞いてみたところ、ある男の子が「こまどりアニメ撮りたい」と言ってくれた。あまりうまくいかなかった企画だと思っていたので、とても驚いた。子どもとこまどりアニメを制作し、WASSHOI!本番で多くの方にアニメを見てもらうことができた。WASSHOI!終了後、子どもから「来年はもっと長いアニメを撮りたい！いつから作り始める？」と声をかけられ、子どもの"やりたい"という気持ちを育むことができたことが嬉しかった。

休眠預金実績

神戸市近郊に居住する留学生を「多様な文化的背景を持つ地域人材」として地域につなげる事業

休眠預金等活用法に基づく「外国人と共に暮らし支え合う地域社会形成2」の実行団体として、「共生型の地域を支える外国人人材発掘、伴走型支援事業」に取り組みました。
事業期間：2023年2月1日～2024年1月31日

活動の実績

食糧支援：13回/1411人
居住支援ヒアリング数： 38人
国際交流イベント：20回開催/外国人留学生74人 日本人学生43人参加
生活相談者数：308人/アンケート調査 52名
ボランティア登録者数：32名
日本語教室参加者数：6人
ボランティア研修参加者数：12人

事業の背景・課題

外国人留学生は潜在的には活動的で社会貢献に関心があり、貢献できる能力があるにもかかわらず、「不安定な生活」や「地域課題に触れる機会の少なさ」が原因で、地域課題の解決につながるアクションを起こすことが出来ず、むしろ「地域の課題を生み出す存在」として社会に捉えられてしまっています。
外国人留学生は、週28時間に限定された労働時間の中で生活費を捻出しなければならないことや、留学に伴う多額の借金への返済をしなければならないことで、経済的に困窮しているケースがあります。また、地域市民との関係性が作りづらい中で、地域特有の文化的背景を知らずに、トラブルになってしまうこともあります。
また、留学生の仕事探しにおいてもアルバイト受入企業数や仕事の分野が限られていることに加え、それぞれの留学生の文化的背景に合わせた労働環境の整備が追いついていない職場も多く、本人のスキル・関心に合ったアルバイト先を探すことが難しいのが現状です。

事業概要

神戸市近郊に居住する留学生に対して、①個別訪問・オンライン面談による困りごと相談解決事業、②日本語カフェ・イベント等の多国籍交流事業、③自身の課題意識に基づいた地域貢献活動促進事業を実施します。
地域内で孤立している留学生にとって、①の事業によって生活基盤に関わる不安や困りごとを解消し、②の事業によって周囲の多様な方々と関わりを持つことで「自分の出来ること・やりたいこと」を見つけ、③の事業によって実際に小さな活動に取り組んでいきます。
日本の地域社会における本人の自己有力感を育むことで、地域課題に対して具体的な解決力を持つ留学生が地域内で育ち、地域としても地域課題の原因のひとつである「文化的背景の多様さ」に対応できる「多様な文化的背景を持つ地域人材」を獲得することができます。本来 地域の中で循環可能な「人材育成」を留学生と共に作り上げることで、「皆が、自分のやりたいことで人の役に立ち続けられる地域社会」を実現し、日本社会における外国人との地域共生のロールモデルとなることを目指します。

食料支援からつなげる子どもの居場所づくり

休眠預金等活用法に基づく「コロナ物価高で増える「虐待」を防ぐ緊急居場所支援事業」の実行団体として、「食糧支援からつなげる子どもの居場所作り」に取り組みました。
事業期間：2023年8月1日～2024年2月29日

活動の実績

・食糧配布：362世帯
・学習支援・遊び場提供日数：694人(小学生)
・困難を抱える保護者の相談支援件数：2件
・中高生の場利用：76人

事業の背景・課題

まなびとはこれまで、神戸市の補助を受けながら子育て世帯向けの食糧支援を実施してきました。支援を行う中で子育てをされている親御さんとお話をしていると、「新型コロナウイルス感染症の拡大」「物価高上昇」などの影響を受け、経済的に困窮している世帯が地域にたくさんいらっしゃることが分かってきました。
支援対象の家庭の中には一人親世帯も多く、「子どもが学校に行きたがらず、かといって経済的な理由から仕事を休むことも出来ずに悩んでいる」という相談を受けることもあり、「困窮している世帯の子どもが通える、学校外の居場所がない」という社会課題が浮き彫りになってきました。加えて、まなびとの現在の拠点が位置する中央区の中心部へは、中央区東エリアに住む経済困窮度の高い乳幼児家庭の保護者は通い辛く、十分なケアを届けることができていない現状があります。

事業概要

中央区東エリアにサテライト拠点を構えることで、同エリアに住む世帯に向けたより手厚い支援が行える体制を整えます。新しい拠点では「食糧支援」「家庭相談」に加え、「障害を持つ、もしくは配慮が必要な子どもの居場所づくり」「中高生が安心して過ごせる居場所づくり」「親にとっても心休まる居場所づくり」といった、様々な対象者への支援を展開していきます。

放課後等デイサービス あるまじろOPEN！
本事業終了後、整備した拠点は放課後等デイサービスあるまじろとして活用しております。今後も、地域の皆様の力となれるよう周辺地域での活動を継続してまいります。

外国ルーツの子どもたちが「地域の中で孤立せずに自我を育み、社会で生きていく力を手に入れられる」ための仕組みづくり

休眠預金等活用法に基づく「外国ルーツ青少年の教育スタート支援」の実行団体として、「外国ルーツ青少年の自己実現を目指した伴走支援体制構築事業」に取り組みました。
事業期間：2023年4月1日～2024年2月29日

活動の実績

・外国ルーツ青少年のちいき食堂受け入れ：25回
・外国ルーツ青少年支援のための事業説明会：9回開催/参加者54名
・外国ルーツ青少年支援団体視察：5件/意見交換会：24回
・外国ルーツ青少年を対象とした
　初期日本語教室：受講者数5名（一人あたり約46回受講）
・外国ルーツ青少年を対象とした個別指導型の学習支援：受講者数5名

事業の背景・課題

神戸市中央区は「人口の1割が外国人」と言われ、外国ルーツ青少年の数も多いエリアです。昨今の水際対策の大幅緩和を受け、訪日外国人も増加傾向にあり、外国ルーツの青少年についても、今後さらなる増加が見込まれています。一般の児童数増加も見込まれていることから、現在の学童保育サービスの枠組みでは、児童および外国ルーツ青少年へのケアを十分に行うことができなくなると予想されます。
一方、学校現場では多様な子どもたちそれぞれに合わせた支援を行き届かせることが難しいのが現状です。外国ルーツ青少年に視点を絞ると、「日本語の習得」はもちろん「文化・慣習」の理解が思うように進まず、学校の中で居場所を見いだせないケースが増えています。国籍も多岐にわたり、ウクライナからの避難民など「単に言語習得だけではない文化理解」や「物価高騰に伴う生活困窮状態への支援」「心理的ケア」など、ひとりひとりが必要とする支援もコロナ禍以前に比べて非常に多様化しています。

事業概要

まなびとの既存事業である「学童保育」や「オンライン学習支援事業」等に在籍する外国ルーツ青少年に対して、①初級日本語教室、②学習支援、③遊び場での受け入れ、④フリースクール等への引継ぎ、⑤ちいき食堂への受け入れを行い、事業の枠組みを整えながら徐々にサービス利用者を広げていきます。同時に、⑥地域内外の団体との連携強化により支援のブラシュアップや役割分担を行い、事業終了（～2024年2月）までに、次年度以降も持続する支援体制を築くことを目指します（含む資金調達）。
「学習支援による学力向上」に加え、遊び場・ちいき食堂での多様な他者との関わりから「ソーシャルスキル」を得ることで、外国ルーツの子どもたちが「地域の中で孤立せずに自我を育み、社会で生きていく力を手に入れられる」仕組み作りを進めます。まなびとの既存事業である学童保育を「地域内の外国ルーツ青少年を受け入れられる学童」へと体制整備することで、他地域・他事業者にとっての先進新事例となれるよう、取り組んでいきます。

2023年度総括

2023年度も、皆様のご支援・ご協力のおかげで無事に1年間活動を続けることができました。コロナ禍では、コロナの脅威から人々の安全を守りながら、いかにしてコロナによって失われがちな人々のつながりを維持し続けるかという課題に挑戦してきました。2023年度はコロナ禍が終わり、地域の活動が活性化する中で、動き始めた社会で取りこぼされがちな子育て家庭や外国人に対してサポートを広げました。

2023年度、まなびとは次の3つのことに取り組みました。

1. アウトリーチ活動の活性化

これまでもまなびとは、地域の様々なイベントに参加したり、飲食店に足を運んだりする中で出会った目の前の一人のために居場所を作ってきました。最初は一人のための居場所が、そこに集う人たちによって少しずつ広がり、育っていく中で、私たちが地域で担う役割も大きくなってきました。それは、コロナ禍でも学童を開設し続け、日本語教室をオンライン化して多くの人に機会を提供できたことを通じて実感しました。コロナ禍が明け、動き始めた社会の中で自分たちに何ができるのかを考え、さらに地域でまだ繋がれていない人たちに繋がりに行くことを選びました。

2. 神戸市中央区というエリアで活動を捉える

これまでまなびとは、神戸市中央区北野エリアという限られた範囲での居場所作りに取り組んできました。しかし、コロナ禍が明けた後、今後出会うべき人たちのことを考え、北野という枠を超えてより広い範囲で活動することを選びました。これにより、まなびとが大事にしている多様な人々との関わりをより実現できると考えました。

3. 有給職員の増員と新規事業のスタート

活動エリアを広げ、より多くの人々と関わるために、2023年度は採用活動を活発に行い、職員数を倍以上に増やしました。また、長年挑戦を模索していた放課後等デイサービス事業もスタートさせました。これにより、多様な人々を受け入れるための人的資源と、それを支える財政基盤をこれまで以上に整えることができました。

最後に、以上の3つのチャレンジを行う上で、2023年度はまなびとのミッション・ビジョン・バリューの見直しにも着手しました。これから変化し続ける社会の中で、まなびととして、チームとして、皆さんと一緒に進むべき方向を共有しながらチャレンジを続けていきたいと考えています。2024年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

認定NPO法人まなびと
理事長　中山 迅一